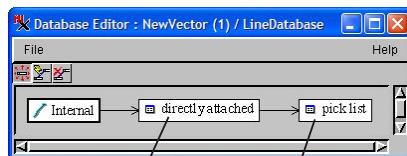


# 新規図形オブジェクトへの値一覧の作成

値一覧を使うと、他のテーブルで定義されたフィールドに対して、属性値のリストから対話的に選択する事が出来ます。最も強力な値一覧の使い方は、オブジェクトのテンプレートの一部として使う時です。テンプレートとは要素のないオブジェクトですが、ジオリファレンスやデータベーステーブルが全てあって、すぐ使うことが出来ます（テクニカルガイドの“空間エディタ：テンプレートの作成と使用 (Spatial Editor: Using Geodata Templates)”をご覧ください）。値一覧を含むデータベースがあって、テンプレートオブジェクトの1つの構成要素として保存されていて、要素とテーブルの間に望ましい関係がある場合、テンプレートから新規オブジェクトを作ると、その値一覧を自動的に利用することが可能です。



要素に直接アタッチするテーブル。外部キーフィールドがあります。

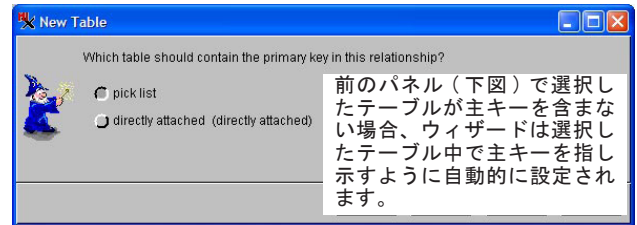
リレートのみテーブル。主キーフィールドがあります。

もしテンプレートやテンプレートを作成するための既存のオブジェクトがない場合でも、新規オブジェクトを作って値一覧を使って簡単に属性を割り当てることができます。値一覧を提供するのに、考えられる最も簡単なデータベースの構造は、2個のテーブルを持ち、片方のテーブルのレコードが要素に直接アタッチされ、もう片方が「リレートのみ」のテーブルの場合です。

この例では、要素を追加する前に要素に直接アタッチするテーブルを作成し、次に値一覧を含むテーブルを作ります。テーブルをこの順番で作成すると、〈テーブルの新規作成 (New Table)〉ウィザードによって、外部キーとして値一覧を提供するテーブル中の適切なフィールドを、要素に直接アタッチするテーブルに対してリレートすることが出来ます。直接アタッチするテーブルを最初に作ると、値一覧用に選ぶキーフィールドがありません。値一覧を含む「リレートのみ」のテーブルを後で作成すれば、ウィザードがユーザーに代わってこの選択を自動で行ってくれます。「リレートのみ」のテーブルを作成する時、〈テーブルの新規作成〉ウィザードは関係付けを行うもう一方のテーブルを指定するよう聞いてきます。このテーブルは、直接アタッチするテーブルです。主キーを含むテーブルの選択も求められ、この場合は「リレートのみ」のテーブルになります



新しいテーブルを作る時、新規テーブルウィザードを使うと選択が容易です。



「リレートのみ」のテーブルが関係付けのための主キーを含む事を必ず指示してください

(このページに示す2個のウィザードウィンドウがそれです)。

もし「リレートのみ」のテーブルを先に作ると、主キーと外部キーの関係は〈テーブルプロパティ〉ウィンドウを使って後で設定することになります。この場合、〈テーブルの新規作成〉ウィザードを使って処理するために[このテーブルをリレートしたいフィールドがまだ存在しません (The field I want to relate this table through does not exist yet)] トグルをチェックする必要があります (このページの下部のウィザードパネルのボタン)。

値一覧が自動的に利用可能であるためには、値一覧を提供するテーブルは「リレートのみ」でなければいけません。「リレートのみ」の選択は、テーブル作成のウィザードでは[キーフィールドを経由して他のテーブルとリレート (Relate to another table through a key field)] と表示され、〈テーブルプロパティ〉ウィンドウの[テーブル] タブパネルの[アタッチメント (Attachment)] フィールドにおいて「リレートのみ」として表示されます。このテーブルの中身は、テキストファイルや他のデータベース形式からインポートされます。

値一覧を提供するテンプレートがないときは、データベースの要素タイプの右マウスボタンメニューから[テーブルの追加] を選ぶことにより、値一覧を含むテーブルを、図形オブジェクトのデータベースとして持てておくことができます。もし、テーブルがないときは、同じメニューから[新規テーブル (New Table)] を選ぶところから始めます。そして要素に直接アタッチするテーブルを定義して、値一覧を提供するテーブルと主キーにリレートします (値一覧テーブルを作るときは〈テーブルの新規作成〉ウィザードを使って自動で行うか、〈テーブルプロパティ〉ウィンドウで手動で設定します)。

両方のテーブルが出来上がったら、要素を追加する前に「リレートのみ」のテーブルに適切な値一覧のリストを入力します。そうしておくで、要素を追加する際、値一覧を使いながら属性を要素に割り当てることが出来ます。続けて作成する他のオブジェクトでも同じ値一覧を使う必要があるときは必ずオブジェクトをテンプレートとして保存してください。